

MS-I-2

脳梗塞後遺症に対するイチョウ葉エキス剤の臨床効果

脳神経センター大田記念病院脳血管医学研究所¹⁾、倉敷成人病センター²⁾、小林内科診療所³⁾、中国中央病院⁴⁾、京都府立医科大学第一内科⁵⁾、宮本整形外科病院⁶⁾、大伝馬耳鼻咽喉科⁷⁾

○盛政忠臣¹⁾、大田浩右¹⁾、吉岡保²⁾、西内敏文²⁾、小林完治³⁾、木畑正義⁴⁾、吉川敏一⁵⁾、石岡達司⁶⁾、杉山順子⁷⁾

「目的」欧米では既に医薬品として、「イチョウ葉エキス剤」の、脳梗塞後遺症症状に対する臨床評価がなされ、臨床医薬品として登録されてきた。しかし、日本では、同的な評価は無い。「この薬剤」の保健医薬品としての認可の予定もない。この研究では、欧米における評価を、open study にして日本における臨床的な評価を多施設で開始した。

「方法」「イチョウ葉エキス剤」（250mg錠；常磐植物化学研究所）を、説明の上、納得された下記、外来患者さんに、一日3錠、食後に1錠を服用していただいた。

「対象」外来通院患者さん。脳梗塞後遺症；9症例、中年期以降のいわゆる冷え性；3例。

「結果」脳梗塞後遺症；9症例においては、全例において改善または改善傾向が認められた。即ち、脳神経機能の全般的な脳改善（脳幹挫傷）、耳鳴り減少と患部側の上肢痛の低下（左不全麻痺）、ふらふら感消失患側右知覚改善および舌もつれの改善（脳損傷）、患側の指先知覚鈍麻の改善（右不全麻痺）、下肢しびれ感の改善（ラクナ梗塞）、患側右手感覚低下の改善（多発性脳梗塞右不全麻痺）、患側左上肢拳上痛の消失と拳上可能（左不全麻痺）などの結果が、本人の自覚症状の改善感および神経学的な診察結果から得られた。いわゆる冷え性の患者さんの評価は、いずれも、この冬の間靴下を履かないで安眠できたとの報告である。

「考察」いずれの症例においても、薬理効果の発現は、本剤投与の2－4週間後に既に認められた。ラジカルスカベンジャーとしての役割。神経細胞内の酸素有効利用。相い反する作用機序の存在も残されているが、臨床効果が明確なので、今後の詳細にわたる検討が必要と考える。

「参考文献」

Ginkgo biloba Extract (Egb761): Pharmacological Activities and Clinical Applications, F. V. DeFeudis, 1991, Elsevier, (monograph)